資料４－１

令和２年度 国立感染症研究所村山庁舎安全管理検証チームの検証報告書

令和 3 年 3 月 18 日

１　目的

「国立感染症研究所村山庁舎の安全対策、災害・事故対策及び避難対応の強化に関する検討会」や「災害・事故等発生時における対応マニュアル」等で示された安全管理対応を検証し向上させることを目的とする。併せて「BSL4 実験室安全操作指針」及び「病原体等曝露対応要領」等の規定に基づく訓練を想定し、BSL4 実験室で事故等が発生したときの初動対応、搬送及び関係者への情報伝達方法を確認し、職員の対応能力の向上を図ることとしている。

２　訓練等の実施内容

今年度は、年度当初から新型コロナウイルス感染症拡大により「緊急事態宣言」が発出されたため、特に訓練は自粛した。以降は宣言下の中でもやり方などを工夫して訓練等を行った。

（1）消防訓練

①村山庁舎全体の訓練（縮小して 11 月・3 月の年 2 回）、②警備・設備員の合同訓練（4 月は中止、その後 2 ヶ月に 1 回）、③BSL3／BSL4 管理区域からの避難訓練（年 2 回）

（2）警備訓練

警備員及び設備員の合同訓練（4～5 月は中止、その後月 1 回）

（3）講習会

①バイオリスク管理講習会（2 ヶ月に 1 回）
②BSL4 実験室内で作業に従事する職員向け講習会（11 月に年 1 回）
③特定二種及び家畜伝染病病原体等取扱者の教育訓練（2 月・3 月の年 2 回）
④BSL4 施設など特別管理区に係る警備員及び設備員向け講習会（5 月に年 1 回）

（4）健康診断

①BSL4 実験室内で作業に従事する職員の適性検査（11 月に年 1 回）
②病原体等取扱職員に対する特別定期健康診断（6 月・11 月に年 2 回）
③職員に対する一般定期健康診断（6 月に年 1 回）

(5) 曝露事故対応訓練＜特別訓練＞

BSL4 実験室内で曝露事故（針刺し事故）が発生したことを想定した対応訓練

・実施時期：令和 2 年 10 月 28 日
・実施場所：BSL4 実験室、戸山庁舎（曝露者の搬送先）
※曝露者は国立国際医療研究センター病院（NCGM・新宿区戸山）に搬送することとなっているが、今回、コロナ対応で病院での受け入れは難しかったため、隣接している戸山庁舎に搬送した。
・訓練参加機関：国立感染症研究所、厚生労働省、武蔵村山市
・訓練項目：①曝露事故発生時の応急対応訓練
②情報伝達訓練（所内及び関係機関等）
③曝露者搬送訓練（公用車にて搬送）
④曝露事故結果の報告訓練
・曝露事故対応訓練後の関係者による検証

今後の訓練では、針刺し以外の事例（意識障害、不慮の事故（骨折等）も想定。
曝露者は男性となっていたが、女性も実験室に入るのでそのような対応訓練も必要。
病原体曝露時の応急処置対応として抗ウイルス薬を投与することなど、入手が難しい薬があるので、NCGM の担当医師と事前に相談しておくことも必要。
BSL4 管理区域に立ち入る者として応急対応医師も入室できるように、BSL4 実験室安全操作指針を一部修正し整備しておく。（次回の改正に合わせて）
BSL4 実験室からの曝露訓練（針刺し事故）は毎年行うことが理想。

(6)その他

「国立感染症研究所村山庁舎の安全対策、災害・事故対策及び避難対応の強化に関する検討会」報告書（令和元年 11 月 27 日）の中で、４頁に記載されている「特定一種病原体の分与を踏まえ、更なる安全対策を推進する分野」での令和２年度に導入を予定していた、①正面ゲートをはじめ施設及び施設周辺の監視カメラの更なる増設、②生体認証システムの導入による入退室者の監視体制の強化、③BSL4 施設に立ち入る者の爆発物・薬物等の有無を検査する機器の導入によるチェック体制の強化については、全て今年度に完了し運用している。

３　全体の検証（評価）

訓練等は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い「緊急事態宣言」が発出されたことなどの要因により中止や縮小などをせざるを得ない状況であった。

しかし、解除後の６月からは順調に訓練・講習会が実施された。特に警備訓練は所轄警察署の積極的な指導等により警備員の資質向上が見受けられた。

また、縮小しながらの消防訓練においても一定の成果が認められ、所轄消防署（北多摩西部消防署）から令和 2 年 11 月に防火管理の重要性を深く認識し防災管理者として業務の推進に努め災害の発生防止に寄与したことにより表彰されたことは特に評価する。今後も更なる防火管理の意識を高め継続的に訓練等を実施することが必要である。

曝露事故対応訓練では、コロナ禍の中で NCGM に搬送することは難しかったが、BSL4 実験室を利用する研究者の意識を高めるよう常に危機意識を持って行うこと。なお、訓練後の関係者の意見を踏まえ、出来るところから改善すること。

講習会・健康診断は、概ね予定どおりに実施されているが、コロナ禍の中で現状に即した講習（オンライン講習等）のやり方等も工夫することも必要である。

４　次年度への意見

新型コロナウイルス感染症対策に留意しつつ、今年度の消防訓練・警備訓練、講習会及び健康診断の状況を踏襲しつつ、臨機応変に実施する。

また、BSL4 からの曝露訓練（針刺し事故）は、毎年実施し、特に搬送先の NCGM の担当医師と事前によく対応についての相談をすること。

また、PDCA サイクルに基づき、訓練等の内容を常に検証・改善の意識を持ちつつ進め、新たなセキュリティ対策等の強化を進めること。

５　安全管理検証チーム構成員

脇田所長、大西副所長、竹下企画調整主幹、中野総務部長、西條高度封じ込め施設長、花木安全実験管理部長（旧バイオセーフティ管理室長）、河合安全実験管理部第一室長、田中業務管理課長、柳業務管理課施設運営室長